



石城分場復活に就いて

神谷村農民組合長志賀傳吉

過縣委員に於て縣農業試験場石城分場復活の決定を見たる事は日本再建の爲に欣快に堪へざる處である殊に當面の食糧危機突破の爲には重要な事である

昭和二十年八月十五日合同の三つ有ると思ふ如何に生きて行べきかを期して日本は武裝な私は第三のデンマーク如何にして立派な日本を平和國家として立たせる方が現在の日本を建設し得べきかを第一に考へては平和國家となると思ふ斯くした意行はつゝしみたいとして起ち上がるには第一から神谷農民組合、大東亞戦争前本一に工業國として日本として石城農事試験場には郡山に縣立農事人の努力に依つて立つ場を復活すべく運動し試験場が有り信達、會場と第二にスイスのて来たのである、現角津、石城、各分場が有

一九四万貫の漁獲

過半以上は江名濱で

鮮魚介類の配給も主食の代替となり一層の重要性を三ヶ月間で實に加えて来たが、水産福島の主力をなす磐城の江名、小名濱、四倉の四月末六月までの漁獲高をみると實に三ヶ月間で百九十四萬五千四百八十貫に達して居る三港の内譯をみると左の通り中之作、江名の兩港を有する江名濱が斷然トップを切り實に百二十五萬六千八百六十三貫を示し水産福島の過半以上の實を占めて居る、次いで小名濱の四十九萬七千七百二十貫で四倉はつと下つて十九萬七千八百七十二貫となつて居る(單位貫)

助成者増加 外地引揚者と復員者の

分場も昭和十八年時代此の三つが主なる原因の風に吹きまわされ分場を廢止する事と成つた此の廢止の理由がたゞらな地理的原因であると思ふ然らば石城分場はどうであつたか折紙を附されれば、如何であつたか述べたい、當時の局長は矢野崎村長は極めて好意的であつた事、つづいて先生がボツト試験場を復活せよと主張された事、つづいて農民の生産と余の爲には分場は地方農民の爲に閉ぢこもつて居た

追従を許さなかつた、分場が縣立國試場として獨立し郡山縣の必要を本分場北端であり寒冷地の裏作指導試験場として特種性を持たせるべきである作付品種に於てはメーイクエンが最も適当であるが郡内裏作芋として良い物は極少であり産確である石城分場が復活され一日も早く種芋採取を希望して居る次第である

お盆の仕入れは せび當店へ

開店

ふたば美容院

日本製着付一切 湯本町上町本町支店

樺太引揚 援護大會 郡下町の統計主任者での大會を開き、今日日

夏と人生

吉屋貞一

四季がほどよく巡り、昔は時文明の基

野荒二人女 十二日前十時頃平市

夏期用雜貨 ウチワ、扇子、掃除其他

四倉音楽會 松葉會主催で 四倉町松葉會では武蔵野音楽學校教授中野貴子、徳岡惠美子兩女史を迎えて十六日午後七時から同町小學校講堂に音楽會を催す

野荒二人女 十二日前十時頃平市

夏期用雜貨 ウチワ、扇子、掃除其他

平木工株式會社 家具・事務用品及建築具

空木箱賣物あります

東北タイター商店